

先導物質化学研究所講演会

ものづくりの未来を拓く感性とサイエンスの融合 サイエンスと感性の相互補完による、 新しいものづくりのあり方

黒田孝二先生（大日本印刷株式会社 研究開発・事業化推進
本部 理事）

主催：先導物質化学研究所

共催：九州大学分子システム科学センター

九州大学高分子機能創造リサーチコア

日時：平成25年2月25日（月）

16:00～17:30

場所：九州大学伊都キャンパスCE40棟2F多目的セミナー室

参加費：無料

黒田孝二先生は東大工学部卒業後、大日本印刷に入社され中央研究所部長を経て、1989年に印刷産業初の分析センターを創設し初代センター長、その後物性分析研究所、生産技術研究所を経て2008年理事職に就任されておられます。JST先端計測評価委員、学振「博士課程人材育成プログラム(オンリーワン型)」委員、東大化学システム工学非常勤講師などをも務めておられます。京都工芸繊維大学の伝統みらい教育研究センターで、京弓の引き手の動きと弓の反応、漆塗りの刷毛の挙動と仕上がり、京壁塗りの道具の鍛え方と仕上りの解明などでも感性と関わる物作りを提案されています。

講演の概要：日本のものづくりの最大の強みは現場に暗黙知として存在する感性である。移動分析車で現場現象を解明してきた経験から、感性と科学の融合ができれば、未来のものづくりイノベーションの基盤となると考える。印刷現場には1ミリ秒以下のインキ転移を操る職人技があり、伝統技術には千年の積重ねを経て伝わる先人の技や道具の暗黙知がひそむ。『見る・観る・視る・診る・看る・察る・顧る』の「七み」を駆使しながら失敗を恐れず仮説を持って行動する試行錯誤を繰り返すことで、感性は養われる。

世話人：九州大学先導物質化学研究所

高原 淳

Tel: 092-802-2517

E-mail: takahara@cstf.kyushu-u.ac.jp